

「学校図書館の活性化をめざしてⅦ 学習活動を支援する工夫」

令和3年度 第3回 学校図書館司書研修会

令和3年12月8日(水)

藤田利江先生をお迎えして、子ども文化広場図書館で学校図書館司書研修会が行われました(コロナ対策のため、一部別室を利用したオンラインで実施)。藤田先生は、全国学校図書館協議会の学校図書館スーパーバイザーで、昨年度、一昨年度にも、図書主任や学校図書館司書に向けてご講演をいただいています。今回、「学習活動を支援する工夫」として講義していただいた内容を一部紹介します。



研修会での講義の様子

1 学校図書館振り返りシート

最初に、2学期までに自校の図書館で取り組んできたことの振り返りを行いました。使用した振り返りシートには、たくさんの方の取り組み例の項目があり、自校での振り返りをするのと同時に、今後の活動の見通しをもつことができました。

振り返りシートより 取り組み例

【イベント・行事など】

ブッククイズ・ブックスタンプラリー・お話間違いクイズ・読書ビンゴ・本の福袋・POP作成・読書バイキング など

【景品など】

1冊多く借りられる券・一日図書委員体験チケット・ブックカバー など

2 調べ学習のこつ

調べ学習の時にうまく本を活用する方法や、その際に気を付けなければならない著作権について教えていただきました。



インターネット＝○たくさんの情報がある。
△読めない漢字がたくさんある。→ネット情報は小学生には不利である。
本＝○年齢に合わせてふりがながつてあり、わかりやすい文章で書かれている。
△人数分の本をそろえることが難しい。

↓

◎司書がその学習や学年に合った本を紹介・提供して、コピーして調べ学習に活用するとよい。(授業で使うコピーはOK)
◎よく分からない資料を見て、丸写しすることは学習ではない。文章の量、写真や図、分かりやすさなど、よい資料を出せば、子どもは意欲的に学習する。

3 奥付を見て、出典を書こう

小学校3年や5年の国語の授業で「引用」の仕方について学びます。今回の講義でも、引用するときのポイントとして、目的に合った部分だけを正確に書き写すことや、「」を付けること、出典を書くことを確認しました。また、実際に各自が持ち寄った本の奥付を見て出典を書き写すワークを行い、書く時に迷いやすい発行年の書き方等を学びました。

～参加者の感想より～

*調べ学習をすることで、知りたい情報を本文から選び抜く力がつくのだと思いました。調べ学習のために、子どもの年齢に合った資料を提供することが大切だと思いました。

*著作権について詳しく教えていただきました。図書室の掲示物なども司書自らが気を付けていきたいと思っています。

